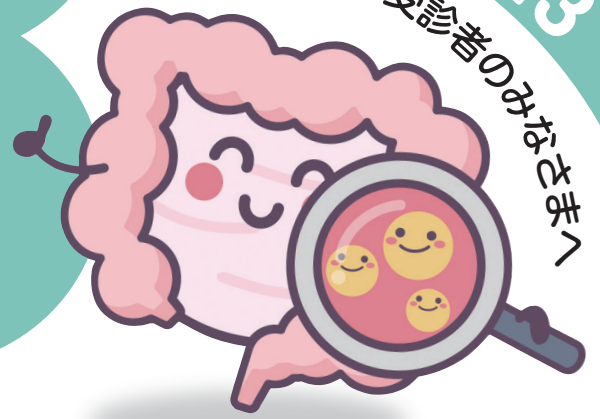


正しく 大腸がん検診を 受けていただくために



大腸内視鏡検査ってどうするの？



大腸内視鏡検査は
すぐにはできません。普通の人でも
約1日分、便秘の人では2～3日分の
便が腸に貯まっていますので、
それを洗い流した後でないと
検査できません。



1 検査前日

通常、検査の前日は**繊維質の少ない消化の良いものを食べます。**

夕食は早めに終えて、夕食後には下剤を服用することがあります。

検査前日の
食事は**消化の
いいものを!!**



2 検査当日

検査当日は朝食を食べずに、**下剤(水薬)1,500～2,000mLを何回かに分けて飲用**します。
便(排出液)が透明になれば
検査可能です。



3 内視鏡検査

体を横向きにし、力を抜いて
楽にします。肛門から内視鏡
を挿入して、大腸内を観察します。
検査時間は患者さんによって多少
異なりますが、通常20分程度で
終了します。

検査終了後、しばらく安静が
必要な場合もあります。



もし検診で大腸がんが見つかったら

大腸がんの主な治療法には
『内視鏡治療』『外科手術』『化学療法』『放射線療法』
などがあります。

患者さんの状態やがんの進行度に応じた適切な治療法が検討されます。
複数の治療法を組み合わせることもあります。治療方針について医師と
よく相談し、納得のいく治療法を選択して下さい。

●内視鏡治療

大腸壁の浅い部分にとどまっている病変は、転移の可能性がほとんどないとされており、内視鏡治療の対象となります。

内視鏡治療技術の進歩により、以前は手術が必要だったかなり大きな病変でも内視鏡で治療できるようになりました。

今では検診で発見された大腸がんの大半が内視鏡で治療されています。

●外科手術

大腸壁のある程度深い部分まで入り込んだ病変は外科手術が必要となります。

外科手術の代表的な方法として『開腹手術』と『腹腔鏡手術』があります。

最近では『腹腔鏡手術』を行える施設が増えています。

『開腹手術』と比較した『腹腔鏡手術』の特徴

- 長所**
- ・傷が小さいため、痛みや体への負担がより少ない
 - ・日常生活に戻るまでの期間を短縮できる
 - ・手術中の出血量が少ない

- 短所**
- ・手術時間が長い
 - ・手術費用が若干高い
 - ・がんの部位や進行状況、体格、以前に行った手術や治療中の病気などによっては不可能な場合もある

